



森のなかま

2011年 4月号

NO. 36 (継続181)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

パートナー企業様をご紹介します ③

富士通エフ・アイ・ピー (株) 様

間伐体験グループ



H22年11月27日、FIPが神奈川県森林再生パートナーとなって初めての「富士通エフ・アイ・ピーの森ボランティア活動」が開催されました。

今回のボランティア活動は、社長、スタッフを含め35名が参加しました。参加者は神奈川県森林インストラクターの皆さんのご指導のもと、間伐体験グループ、森林観察グループに分かれて活動を行いました。

＜サービスビジネス本部＞

間伐体験グループでは、7～8名の2班に分かれ、それぞれ間伐を実施しました。人工林は間伐を実施しないと木々が密集してしまい、1本ずつに栄養が充分いきわたらず、木の成長が悪くなります。さらに、地面に日光が届かず下草が生えないため、地表の土が雨で流されてしまい土砂災害を誘発することになります。健全な森をつくるためには間伐が不可欠です。

作業は、まず選定された木(直径約20cm)をある程度までノコギリで切ります。1人ずつ交代で切りましたが、生木はなかなかうまく切れず、肌寒かった森林でも汗ばむほど大変な作業でした。

ある程度まで切れたら、ロープを木に掛けて引き倒します。綱引きの要領でみんなで力を合わせて引っ張りますが、足場が土なのに加え傾斜ということもあり、踏ん張る事が出来ず苦労しました。木を倒した後は運びやすいよう枝を切り落とし、1～2mの長さに切りました。

今回の間伐体験はここまででしたが、体験者の方々からは「普段にはない貴重な体験が出来た」「大変な作業だが、やってみると面白い」といった感想がありました。



森林観察グループ

森林観察グループは、1時間ほどかけて周辺の散策を実施しました。インストラクターの方の話に耳を傾けながら、皆さん色々なところに目をむけ、自然の営みを発見していました。

なお、散策途中には、昨年9月に発生した台風9号の爪跡が随所にみられ、自然の猛威を目のあたりにしました（丹沢湖周辺は、1日としては史上1位の約500mmの雨量を観測）。

自然との共存が必要なことを改めて感じさせられた森林観察でした。



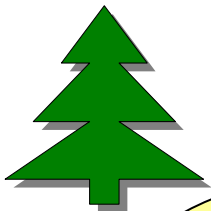
活動林での間伐体験・森林観察の後は、F I Pの森と同じ神奈川県足柄にあるアサヒビール様 神奈川工場を見学しました。アサヒスーパードライの

製造工程をはじめ、アサヒビール様の歴史、そして環境保全活動を勉強しました。また、工場の敷地内には、ホタル等さまざまな生き物が生息する「アサヒ・ビオガーデン」があり、自然観察、散策の場としても利用できます。見学の最後にビールやソフトドリンクを試飲しました。

工場でいただくビールは、ボランティア活動の後ということもあり格別！疲れた体にしみわたるようでした。



神奈川工場

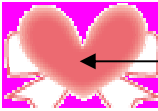


今後の予定

今後、「F I Pの森」のボランティア活動は、春と秋の年2回の実施を予定しています。活動林の整備が進めば、ご家族の方とともにボランティア活動に参加いただけるようになると思います。「F I Pの森」のボランティア活動を通じて、自然環境の再生に貢献していきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いします。



クラウドサービス統括部 秦野一哉様のご了承を得て、富士通エフ・アイ・ピーニュース「NEXT」2011年1月号より転載いたしました。



小春日の恋合戦

泥を蹴りけちらし恋の赤蛙 たけし

時は2002年3月8日、正に啓蟄の候である。小生は鎌倉・散在ヶ池森林公園のせせらぎに沿った小道を歩いていた。冴え返る弥生の空ながら、水面にはアメンボウがその温もりに春の目覚めを喜び合っていた。

そんな息吹きのひと時であった。“バシヤ、バシヤ！”の怪音が伝わってきた。音源は直ぐに特定出来た。せせらぎの右岸に広がる15畳ほどの湿地だ。そのど真ん中の水溜りに10匹ほどの蛙。何と泥仕合いの真っ最中ではないか。互いに泥を蹴り合う。B個体がA個体の背に飛び乗る。するとAは反撃し、Bを泥と一緒に蹴散らす。両者の隙を狙ってCがちょっかいを出す。力相半ばし、最後は共にヒックリカエルと言った具合だ。

引っ繰り返った蛙、それは「太鼓ッ腹まる出し」の態、この世にこれ以上の滑稽があるものか、の図である。正体は直ぐに分かった。ヤマアカガエルの雌をめぐる雄どもの「抱接の権利獲得」の勝ち抜き戦なのである。掲句はそんな様を描写してみたものなのだが？はてさて、その幕切れ、果報者の表情は？

おんぶして澄し顔なる赤蛙 たけし

ヤマアカガエルはアカガエル科に属し、世界には約45属600種が知られており、我国ではニホンアカガエル、ツチガエルなど十数種が記載されている。一般にカエル類は陽春から初夏の候に産卵活動をするが、アカガエル類は「冴え返る春なかばの候」、すなわち2～4月の春めき立った1日、冬眠から醒めるや否や数時間のうちに例の事を済まして1,000個もの卵（卵塊）を生み、終わるとまた水底で初夏まで眠りこける。「春眠暁を覚えず」を決め込むわけで、孟浩然先生の苦虫顔が浮かんでこようというものだ。

最近のカエル類の観察記録も多くなり、恋合戦の日付も更新されてゆく。厚木市七沢の自然環境保全センターの湿生園では1月15日に、と小生は自慢していたのに、東京・高尾山麓では1月12日にといった具合だ。

ニホンアカガエルとヤマアカガエルは平野部で混生することがあるが、山地寄りに生息するのが後者の和名の由来である。つまり、生息主帯は里地里山の湿地・湿田などである。食物は昆虫類、節足動物、貝類、ミミズなど。一方、捕食者としてはイノシシ、肉食の各種、鳥類、ヘビ類等が知られている。

昭和45年ごろまで東京・新宿にムカデの丸焼きやヒキガエルの姿焼きなど下手物を食わせる「秋田屋」と言う名の店があった。ヤマアカガエルの「腿の丸焼き」もメニューの1つで、その煙りと

神奈川県森林チーフインストラクター

飯村 武

醤油味が格別で、地方出の者の里心と呼び起こし、元気づけてくれた。いわば東京のど真ん中に里地里山があったようなものだ。

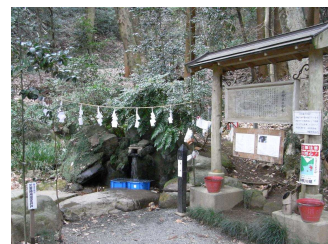
我国の里地里山地域は国土面積の約4割を占める。しかし、燃料革命・高度経済成長以来過疎化が進み、土地利用が疎まれて今日に及ぶ。一方、東京・新宿などでは新時代を目指して再開発が進み、里山志向の下手物店など紙屑のように消し飛んでしまった。

時は流れて21世紀、環境の世紀へと進んだ。遅れ馳せながら私達は今やっと里地里山の大切さに気付き、「生物多様性」の御旗のもと、その保全・再生・利用を期して動きだした。

さて、里地里山の生き物たち、といえばホタルやドジョウなどだ。これらに比べればヤマアカガエルは影の薄い存在のようだ。しかし、その風采は里地里山の主、先住族、惣領、河童の友達などを連想させる変化自在の代物だ。そして、出番がくれば御箱の「恋合戦」とくる。本気で里山再生に取り組むなら、この十八番で里山大歌舞伎を演出し、大向うを唸らせてくれるにちがいない。



おんぶして澄し顔なる赤蛙



杉崎恒三様（10期）からヤマアカガエルの貴重な写真を提供して頂きました。

場所は南足柄市三竹の「御嶽権現神社」の“みたらし”です。カエルは水受けの青い水槽の右辺りの僅かな溜りに群がっていて、私の気配で慌てて四散し、右の岩陰や落ち葉の陰に入り込み、息をこらします。

私の認識

野鳥その87

高橋 恒通

ツル目ツル科の野鳥の4番目は、私の認識では元祖、家元、本家と言える留鳥のタンチョウ（漢和名：丹頂、英名：Red—Crowned Crane 体長L=♂140、♀131 cm、特別天然記念物、特殊鳥類*、♂♀同色）をご案内いたします。

その前にお断りしておきますが、実はタンチョウを中心にナベヅル、マナヅル、アネハヅル等のエピソードを約7年前に、＜野鳥 その⑥＞で紹介させて頂いています。従って、8期ぐらい迄の会員の中で、記憶力と興味と関心の3点セットが揃っておられる方は「何だ又か・・・」と思われるかも知れませんがご容赦下さい。

我国で観察できるツル科の野鳥の中で最大の大きさです。体色は和名、英名共通の根拠となっている頭頂部の赤色をした皮膚、額から顔前面、喉、頸、尾の如く見える次列と三列風切羽（飛翔の時に尾羽が白色なのが判ります）そして脚が黒色、濁黄色の嘴、それ以外は白色で大変に美しい色合いです。尚、幼鳥は体全体が淡褐色ばい体色



タンチョウ

をしています。

日本野鳥の会自然保護室に確認したタンチョウの個体数は、世界全体で2,750羽、その中で我国には1,213羽（2007年調査、除く動物園飼育数）だそうです。世界地図上での棲息地域は日本、中国、ロシアです。その棲息環境は湿原、干潟、河川、湖沼、牧草地等です。

我国での行動様式は、ねぐらの川の浅い流れの中で、立ったまま寝るケースが多く、採餌する昼間は給餌場で穀物を、そして湿原、河川、湖沼等で魚類や蛙や昆虫など何でも食べます。給餌場などでも番（ツガイ）と幼鳥など家族単位群で集まって行動をします。また営巣はキツネなどに襲われない様に湿地の中にアシを積み重ねた巣で行います。求愛のディスプレイはテレビ等で放映される美しいダンスをし乍ら、♂は「クルルウ」、♀は「クワックワッ」と甲高く何度も繰り返します。

私達は“ツルの一声”などと言いますが、あれは多分ウソです。

嘘と言えば絵画や花札に“松に鶴”でタンチョウを画いてますが、私は嘘だと認識しております。行動様式から言っても松の枝に止まったりするケースは考えられません。

あれは恐らくコウノトリだと思います。コウノトリは人工構造物など高い所で営巣しますから絵師が勘違いしたものだと思います。

さて、タンチョウをアイヌの人は“サロルンカムイ=湿原に居る神”と呼んで神聖視しますが、江戸時代に北海道を支配した松前藩ではタンチョウの肉を塩漬けにして“塩鶴（シオヅル）”の名で名物となっていた事実が文献**に出ています。

文化の違いがこれ程までに激しい温度差を我国でも確認できる事は驚きです。

“鶴は千年、亀は万年”と言われ、お芽出度い生き物の代表選手です。その鶴を捕獲し、その肉を塩で保存食に加工され縁起の良い名物として販売され、幕府にも献上された事も想像に難くありません。

全世界の個体数の約半分弱が棲息する北海道の道鳥はタンチョウです。因みに道木はエゾマツ道花はハマナスであります。

* 特殊鳥類とは「特殊鳥類の譲渡等の規則に関する法律」に指定された鳥類で1987年現在日本産は35種と亜種が指定されています。

** 俳句を嗜む人のバイブルと言われる新村出校閲、竹内若、校訂の岩波文庫の“毛吹草（ケフキグサ）”に諸国古今名物を列記した処の176頁に記載されています。

<参考資料>

- ◎ 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と溪谷社
- ◎ 日本の野鳥、山溪カラー名鑑、
編 高野伸二、解説 浜口哲一、森岡照明、
叶内拓哉、蒲谷鶴彦
山と溪谷社
- ◎ イラスト ～ 春 ～

TANZAWA/TANSHIN



森の案内人今年初めてのスタートです。お客様は桜美林大の研修生、冨永 恵さん、秋山晴花さん、案内人は竹島さん③と松本さん⑧、3/5(土) 撮影：広報部 M

森林文化部会「炭焼き・竹細工教室」開催報告

1日目：(炭焼き) 座学、出炭、炭材窯詰め、窯口焚き、**(竹細工)**
2日目：(炭焼き) サシコ着火作業（着火後焚き口を小さくする）
(竹細工) 竹籠作り

データー：2月19日（土）20日（日）
 両日共9時半～15時50分
場所：清川村青少年の家
講師：炭焼き一武者・竹細工一中元
 20日は同好会“煤の会”と合同作業

森林文化部会では、数年前移動式の簡易炭焼き炉を用いて炭焼き体験を行ったが、今回は本格的な窯を使用して、炭焼き（竹炭）体験を行った。まず座学で白炭、黒炭の違い、黒炭窯での炭焼きの進め方について学習した。次に実地で炭焼き体験を行ったが、時間の関係で事前に講師の方で火入れしておいた炭材を出炭し、その後炭材（竹）の窯詰め、口焚き、着火を行った。今回は多人数で手際良く作業ができたが、大量の炭材の窯詰め、出炭はなかなかの重労働である。先人の苦労がしのばれる。出炭した竹炭はなかなか良い出来で、各自希望の量を持ち帰った。

炭焼きと並行する形で竹細工を行ったが、いつもながらヒゴ作りに苦労する。薄くなりすぎて途中で切れたり、太いところ、細いところが混じったりして、なかなか思うようにいかない。やっとの事で18本のヒゴを作成し六つ目編みで竹を組んでゆく。講師の手を借りてようやく籠の形にすることができた。

炭焼き

参加：井出①、米本②、落合③、石原③、佐藤⑤、白畑⑦、武者⑦、松村俊⑧、有坂⑧、内野⑨、高橋⑨、鈴木朗⑨、村井⑨、中元⑩、小笠原（多）⑩、真貝⑪、柴⑪、小笠原（望）⑫、



大量の炭材（竹）。こんなに一杯入るのかとまずびっくり



リレー方式で竹材をどんどん入れて行く



窯の中では炭材を縦にびっしりと詰めて行く、上にサシコを詰める



先ず口焚きし、一晚おいてサシコ（燃料）に着火する。うちわで扇ぐ。



煙突の煙の様子を確認し、吸気口と煙道を塞ぎ、粘土で密閉する。



着火後48時間程で消火し、その後3日くらいおいて出炭する。

竹細工



幅6ミリ程度にした竹を、厚さが1/8程度になるようにする



六つ目編みで竹を組んでゆく。何度かやり直しをしてようやく完成



ほぼ完成した籠。時間の関係で、上部の弦巻は後日行うことにする

活動短信

1/23～3/5

県民参加の森林づくり活動

日 1月23日(日) うす曇 8時40分～13時半
 場 足柄下郡真鶴町岩(真鶴町県行造林)
 参 64名(男性56名、女性8名)
 財 高橋課長、永島、 青木
 イ L大道⑥、大塚①、柳③、佐藤⑤、滝澤⑤、
 杉戸⑥、鈴木昭⑦、小野⑦、阿部⑧、
 中田⑩、牧野⑩、 岸⑪、佐藤一⑪、
 真貝⑪、鳥飼⑪、山下⑪、

今回は、真鶴町岩地区の間伐作業である。活動エリア近くの星ヶ山公園にてオリエンテーション・体操等を済ませ、徒歩10分程進んだ活動場へ移動、参加者は5班に分かれ活動に必要な諸道具を身に付けインストラクターの誘導のもと、それぞれの担当エリアへと向かう。「当該エリアは、植樹後ほとんど手が入ってない22年生のヒノキ林、木は密集、幹は全体的に細く、枝が絡み、林床に植生も無く、管理の行き届いてない悪い見本のような森である。」各エリアでインストラクターから細かな諸注意や間伐指導を受ける作業が開始された。選木されてる木は元口10cmだいが大部分で、切断は容易であるものの伐倒では、ほとんどが掛かり木となり処理に悪戦苦闘である。しかし作業も中盤に入ると要領を得て根元を引く者、木の上部にロープを掛け引っ張る者とグループ間が協力しあい処理作業がスムーズになった。予定時刻の11時50分、若干の切り残しはあるものの全員怪我も無く作業を終了。昼食時には太陽が顔を覗かせ気持ちのいい昼食と恒例のミニ講を済ませ、一路真鶴駅へ向かい解散。インストラクターの反省会では、“ロープがたりない” “鋸が切れない” “等、又、ヒヤリハット事例が報告され、財団担当者と共に問題点を共有し改善に努めることを確認した。” (記 6期 大道)

自然観察&箸づくり

日 2月10日(木) 晴れ
 場 県立21世紀の森・森林館木工室
 参 横浜市大 ゼミ学生17名・教授1名
 講師 AGS 木津他2名
 イ L久保⑧、内野⑨、

当日の二日前に(株)エリアドライブからの連絡で到着時間の関係で自然観察が中止となり、木工室で箸づくりの補助を務めることになった。集合時間より早く到着したので我々も一通りの箸作りの実習をさせてもらった。バスが到着したのは10分遅れの10時40分頃で、すぐに講義室で野田所長が21世紀の森の説明、木津講師及びスタッフの紹介を手早く済ませ木工室に移った。今日のお客様は横浜市大の教授とそのゼミの学生さんとのことで、慣れぬ手つきでしかし楽しそうに箸づくりに没頭していた。タイムリミットを10分延長し11時40分、やっと完成した箸を満足そうに握りしめバスに飛び乗り、次の目的地、アサヒビール工場見学に向かった。

最近の学生さんは環境に関心が深いとの話であったが、箸の材料が間伐材であるとの説明が頭に残ることを願った。 (記 8期 久保)

森林講話

日 2月18日(金) 晴れ 13時35分～15時5分
 場 川崎市立新城小学校 視聴覚室
 参 5年生3クラス 120名 教師3名
 財 古舘
 イ L高崎④、島岡③、村井⑨、

学校の要望として「森林と私たちの暮らしについて関心を持ち、どんな結びつきがあるかを知る」が学習のねらいでした。室内の電気を全部つけて、子供達の顔を見詰めながらの講話に子供達も真剣なまなざし、ボランティアの人達の苦労話を高崎さんから質問形式で私たちに投げかける。間伐の危険性や夏の暑い下草刈りの苦労を子供達に話す。島岡さんはパーポイントで紙芝居のように語り、質問をする。しっかり勉強してる子供達が多く、的確な答えが返ってくる。私は液晶プロセクターが使えるというので、資料を作り持参しましたが、思うようにピントが合わず、島岡さんの資料もお借りしましたが、シツチャカメツチャカの森林講話デビューでした。

(記 9期 村井)

あしがらグリーンウオーキング

「早春の足柄平野に梅の香りを訪ねて」

日 2月19日(土) 曇り 9時～12時20分
 場 J R御殿場線 上大井駅～下曽我駅(6, 5^{キロ})
 参 21名
 財 足柄上地区推進協議会 小泉氏
 県 県政総合センター環境部環境課 萱原、中島氏
 イ L辻村⑨、上宮田⑩、

J R御殿場線上大井駅集合、主催者側より主旨行動説明・準備体操後行動開始する。参加者は高齢の人が多く見受けられた為、車の通行が少なくなったところより、人家に植栽されている樹木の話から始める、畦道には春が早く来ないか待ち焦がれている様な、可憐に咲く草花数々……。天気が良ければ丹沢の山々や箱根連山の頂が見えるはずなのに、生憎の曇り空で残念であった。

別所梅林・原梅林共土曜とあって人人の波である。梅林の下では既に車座となって花を愛でる人、花はどちらでも良く酒を酌み交わす輪があちこちに見受けられる。ウオーキング参加者も咲き誇る梅に堪能したのか幸せそうな顔顔で散会となった。

(記 9期 辻村)

環境を守る ～自然とともにくらす主役は、
やっぱりわたしたち～

日 2月24日(木) 曇り時々小雨
 9時45分～12時半

場 やどりき水源林
 参 川崎市立日吉小学校5年生126名・教師6名
 財 古舘
 イ L足立④、高橋③、増子③、渡辺③、宮本④、
 米山④、渡部⑦、久保⑧、村井⑨、海野⑩、
 杉崎⑩、鳥飼⑪、

小雨が降ったりやんだりの中、子供たちは元気にやってきた。集会棟下の広場でご対面。早速4コース12班に分かれて水源林探訪に出発。やどりき大橋の上から、水源林の全貌を見渡す。山を見ると、濃い緑、薄い緑、灰色、などまだら模様。あれは一体なんだろう。では、確認に出かけよう。子供たちは興味津々。ゲートの上部に広がる林はヒノキの森。ヒノキの鱗片葉が小さく粒状になって、地面に広がっているのを見て、驚く。スギの葉っぱは針のようにとがっているんだと、また、不思議そう。人工林の様子を確認した後、チョコボールのような糞を見つけ、あっ、シカがいるんだ！フサザクラの溪畔林には落ち葉がいっぱいでふかふかしている。天然の広葉樹林を目と体で確認。林道脇の崖から沁み出ている水を発見。これが沢に流れ出す水だよ。この沢の水は、川崎市にも送られているよ。班毎にインストラクターを囲んでお弁当。12時半、降り始めた雨の中、別れを惜しみながら、子供たちに手を振った。

(記 11期 鳥飼)

県民参加の森林づくり(竹林整備)

日 2月26日(土) 晴れ 9時～13時
場 足柄上郡中井町比奈窪・中井中央公園
参 一般県民 91名(申し込み者:105名)
 桜美林大学ECO-TOP研修学生 2名
財 高橋課長、永島、
イ L白畑⑦、大塚①、鈴木③、足立④、木元④、
 宮本④、米山④、尾崎⑥、善波⑥、松田⑦、
 吉村⑦、**研** 一重⑪、上野⑪、徳岡⑪、
 福島⑪、湯浅⑪、

町の担当者のお話しでは、「全部刈っていいです。」との事でしたが、特に道路に覆いかぶさっている部分を刈ってすっきりさせたいとのご意向でした。活動エリアはかなり広い上に、密集したマダケの林は、入り込むのがやっとで、枯れて倒れた竹がいたる所にあり、特に伐採竹の処理は大きな問題でした。2～3班は伐採竹の搬出もままならぬ状況でしたから、道路沿い2mの皆伐スペースでは置ききれず、林内に積み置く事になりました。作業時間内で、手つかずの部分もあり、整備は未完で終わりましたが、気温も上がり、参加した皆さん汗を流しながらの大奮闘でした。今年度最後の森林づくり活動は参加多数で天気にも恵まれ、怪我もなく、無事終了しました。

(記 7期 白畑)

間伐(雨天中止)

日 3月2日(水)
参 鈴和会(鈴廣かまぼこ)
イ L飯澤⑨、小沢⑨、

広葉樹の苗木 植栽

一東北関東大震災余震で中止—

ふるさとの森づくり運動実行委員

日 3月12日(土)
イ L米山④、斉藤⑧、小沢⑨、村井⑨、大澤⑩、
 金森⑩、酒井⑩、

12期生養成講座(自然観察)

日 3月5日(土) 晴れ、9時45分～15時半
場 県立21世紀の森
参 33名(欠席2名)
財 鳥海
イ L女川⑨、高崎④、久保⑧、黒澤⑧、杉崎⑩

12期生養成講座も13回目を迎え、前半最後の研修となりました。自然観察会の実習ということで、午前中はミニ講話の後、5班に分かれて各インストラクターによるデモンストレーション、午後は同じく5班に分かれて各研修生に解説の実習を行ってもらいました。「金太郎コース」を使い、実習では7区間に区切って、各研修生に1区間ずつ担当してもらいました。

自然観察に関する研修は今回が初めてのことでしたが、比較的関心が高いようで、皆さん話題に窮することもなく、各人が得意な話題を取り込んだ話をしてくれました。「この分野の活動をしてみたいですか？」の問いに10名以上の手が上がり、大いに期待を持って終えることができました。

(記 9期 女川)

東北・関東大震災救援募金のお願い

NPO法人かながわ森林インストラクターの会
 理事長 島岡 功

今回の大震災に対し会として以下の通り
 救援募金の取りまとめを行います。会員の
 皆様のご協力をお願いいたします。

1、募金方法・・・郵便振替での募金・・・

NPO かながわ森林インストラクターの会
 振替口座番号 00230-0-2454
 *郵便振替の場合は「震災募金」と明示してください

・募金箱での募金・・・連絡事務所募金箱又は
 ・5月15日平成23年度通常総会会場の募金箱

2、募金額・・・1口1000円×志し口数

3、第1次募金期間・4月1日～5月15日

(郵便振替の場合は、4月1日以降を厳守して
 ください)

4、救援募金納付先・現在のところ未定ですが、
 理事会で納付先を決定
 (例・神奈川新聞社、社会福祉協議会、日本赤十字社等)

5、連絡先・かながわ森林インストラクターの会
 事務局 ☎046-280-4101

やどりき水源林 ミニガイド

3月のトピックス



東北関東大震災の影響を考え、寄バス停そばの川原で森の案内人説明会をひらきました。3月13日(日)

4月の水源林

溪畔林のフサザクラも満開！ スミレの饗宴、フデリンドウ、ダンコウバイ、アブラチャン、ミヤマシキミなど花や若葉、ヒメウツギの蕾、そして小鳥、虫たちも春の暖かさに誘われ、水源林をにぎやかに演じてくれます。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報&ご案内

県立四季の森公園春祭り 4月29日 雨天時は翌日

NPO法人四季の森里山研究会が毎年ブースを出します。森のクラフト体験やグッズ販売、昔懐かしい遊びなど横浜の自然豊かな公園で楽しむイベント。野外ステージでの歌・踊り・演奏、ちびっこ動物園、各種団体の体験型催しや展示などが園内の各所で開催されます。こいのぼりが連揚され寺山ばやし流れ、もぎ店などの出店もあり多くの人々で賑わいます。※当日は大変混雑しますので、車での来園はご遠慮ください。

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。本の紹介、本誌、別冊の感想、要望、なども募集しております。

送り先

<①電子配信担当>

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mai: minagold109@yahoo.co.jp

【ccで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

一編集後記—

大震災に思う・2題

★未曾有の激震・大津波。壊滅の町。肉親を探す姿に涙なす。被災者が支えあう姿、絆とは何かに胸を打たれた。他方、トイレトペーパーを三つも抱えた人をみた。狂乱の物を買ひ奪い合う姿を店でみた。自分だけ良ければの無情の姿の都会人に目を見張り、怒鳴りたくなった。改めてボランティアの会の本質を、我々は問われている。(鈴木松)

★東日本大震災の被害は大きく、さまざまなイベントへの影響が出始めています。自粛して、喪に服する必要がありますが、生き残った命を元気づけて、再び日常に戻ってゆく助けをすることも大事だと感じています。まだまだの部分はあっても、政府は良く頑張っていると思います。東京消防庁も自衛隊も良く頑張っています。

義父は、5日以上泊り込み、昨夜はようやく家族そろって食事ができる時間が取れました。東京消防庁に勤める友人は気仙沼に6日間滞在し活動してきました。昨晚話を聞いたら、「頑張ってきたけど、だれも助けられなかったよ」と、寂しく語っただけでした。

こんな人たちの苦労がある中、メディアの政府批判や救助活動への批判などが聞こえてくると、とても悔しく思います。もう、以前のような日常は帰ってきませんが、新しい暮らしの日常を早く取り戻したいものです。(森)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用して申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫 (HP)

鈴木松弘 森本正信 森 義徳

鈴木 朗 水口俊則 真貝 勝

～ 春 ～

町田のヘルシー料理/柿島屋さんに緑の募金箱を設置しました。



ボランティア活動に協力的な柿島屋ご主人を囲んで、島岡さん、竹島さん、森本さん。美味しい馬料理のお店です。電話：0427-22-3532

土、日、祭日はお昼から営業
平日は4時半～・水曜日定休

撮影 広報部 柿島屋常連

4/3に開催予定の地球博物館主催、「箱根ジオパークを考える」は地震による影響を鑑み延期になりました。延期日は未定です。